

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

ここに座るといのは説教の前触れとも解せますが、ここではイエスが休息を取る様子を指します。4節でユダヤ教の最大の祭りのひとつである過越祭が近づいていると記されていますが、祝祭は巡礼者がひしめく最も忙しい時期でもあり、その合間にイエスが休息を取る様子が描かれています。

「イエスの休息」を本学に当てはめると、授業、部活、サークル、バイトなどで多忙な日常の合間、火曜のこの時間に講堂の椅子に座り、礼拝に出席して心身の休息を取り、多忙な日常に備えることのできる「アジール（休み場、逃れ場）」としての大学礼拝が本学に在り続けていることの幸いを学生みなさんと一緒にこれからも継承していきたいとの思いでいます。

【CCCによる特別礼拝と茶話会の報告（2025年7月15日）】

先週は韓国からCCCの学生を迎えて、特別プログラムで礼拝を行い、礼拝後に講堂2階で茶話会を行いました。茶話会には87名が集まり、素敵な時間を過ごしました。韓日の国際交流、文化交流の機会でもあり、スマホの翻訳アプリで言葉を交わす姿に日韓の友情の架け橋が見えました。

《CCCによる特別プログラムの礼拝》 《CCCと本学の学生で賑わう茶話会》



【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしております。

【次回の大学礼拝（前学期最終礼拝）】2025年7月29日（火）10時40分

聖書：ヨハネによる福音書6章5-7節

奨励：「現実と理想の狭間——理念から理想へ」小林昭博（宗教主任）

【前回の大学礼拝】2025年7月15日（火）

学生：93名 教職員ほか：8名 CCC：30名 合計：131名

【大学礼拝週報】2025年度 第14号（前学期第14号）

2025年7月22日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司 式 小林昭博（宗教主任）

奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）

讃美指導 相原晴伴（循環農学類教授）

前 奏 神家をかえりみたまわずば（J.C.バッハ作曲）

讃 美 歌 讃美歌21 493番（いつくしみ深い）

聖 書 ヨハネによる福音書6章1-4節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨 励 「イエスの休息——アジールとしての大学礼拝」

祈 り 小林昭博（宗教主任）

讃 美 歌 讃美歌21 495番（しずけき祈りの）

報 告

後 奏 ふるいたて我が心よ（グループナー作曲）

【本日の聖書】ヨハネによる福音書6章1-4節

1その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。2大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。3イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。4ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。

【奨励】「イエスの休息——アジールとしての大学礼拝」

本日の聖書箇所はある物語から別の物語に場面が移るさいの情景を描いています。聖書学ではまとめの句や要約的報告と言われる短い単位です。1節はイエスがガリラヤ湖の西岸から東岸に渡ったという地理的描写です。2節は病で困窮する人々を癒やすことがイエスの働きであり、それがイエスの人気の秘密であることに触れています。そして、3節でイエスは山に登るのですが、ユダヤ教では山は天（神）に近い聖なる場所であり、そ